

イコモスの評価結果及び勧告の概要（ル・コルビュジエの建築作品）

（他国の個別資産に係るものを除く）

① 顕著な普遍的価値について

7カ国・3つの大陸に所在する資産は、建築の歴史において初めての、半世紀以上にわたる、地球規模での国際的な取組みを示すものである。

17の構成資産は全体として、20世紀の社会・建築における根本的な問題の幾つかに対して傑出した回答を示した。全ての構成資産が新たなコンセプトを革新的な形で示し、地域を超えて顕著な影響を与え、全体として世界中に近代建築運動を広めた。近代建築運動は、多様さを内包しつつ、20世紀における重要かつ必要不可欠な社会文化的／歴史的な存在であり、21世紀の建築文化の広範にわたる基盤をなしている。近代建築運動は、1910年代から1960年代にかけて、現代社会の課題に答え、国際的な思想に関する場を与え、新たな建築のあり方を考案し、建築技術を近代化させて現代人の社会的・人間的に対して回答を示した。

② 完全性について

イコモスは構成資産全体の完全性が正当化されていると考える。個別の資産については多少の脆弱性が認められるものの、概ね良好な状況が確認される。

③ 真実性について

イコモスは構成資産の全体、そして個別の各資産においても一部を除けば真実性が認められると考える。

④ 比較研究について

イコモスは、比較研究によって構成資産の選択およびに世界遺産一覧表としての重要性が正当化されていると考える。

⑤ 評価基準の適用について

・基準（ii）について

イコモスはこの評価基準が全ての構成資産に対して正当化されていると考える。

・基準（vi）について

イコモスはこの評価基準が全ての構成資産に対して正当化されていると考える。

構成資産の選択とその方法は正当であると判断する。評価基準、OUVともにこれらの資産によって十分に表現されていると考える。

⑥ 資産に影響を与える要因について

イコモスは、資産に影響を与える主な脅威は、資産本体・緩衝地帯・周辺環境における開発圧力であると考えており、これは一部の資産について認められる。

⑦ 保存管理について（資産範囲、緩衝地帯（バッファ・ゾーン）、保護措置、管理運営）

- ・イコモスは、資産範囲及び緩衝地帯は適切であると考ええる。
- ・イコモスは、資産の保護措置は適切であるものの、緩衝地帯についてはいくつかの構成資産において強化すべきであると考ええる。
- ・イコモスは、保全状況は概して適切か良好であると考ええる。
- ・イコモスは、全体的な管理体制は適切であると考ええる。

⑧ 国立西洋美術館について

- ・前庭の植栽が真実性を減じている。
- ・耐震対策がしっかりとされている。
- ・緩衝地帯内外で何らかの開発事業が行われる場合には、眺望の観点からの影響評価が重要。
- ・「コルビュジエの作品であることを際立たせるため」の復元（自然光、前庭等）の実行の詳細について。
- ・特に国立西洋美術館については、世界遺産登録を強く支持するなど、地元コミュニティの積極的な参画が認められる。

⑨ 勧告

イコモスは、評価基準(ii)及び(vi)の下に「ル・コルビュジエの建築作品 - 近代建築運動への顕著な貢献」を世界遺産一覧表に記載することを勧告する。

イコモスは、締約国が以下を考慮することを併せて勧告する。

- ・全ての構成資産について、開発計画に対する遺産影響評価の手法を導入すること。
- ・全ての構成資産について、モニタリング指標を改善すること。
- ・シリアル全体について、合意された保存の手法と手順を進展させること。
- ・シリアル全体への影響の可能性との関わりの観点で、構成資産にかかる重大な開発計画について全締約国が理解することを可能にするため、「国際常設会議」をどのように改善できるかについて検討すること。

(別添)

- ・ シリアルに対する今後の拡張の手法，及び最終的な範囲について，「国際常設会議」からの提案を提出すること。
- ・ 第42回世界遺産委員会で議論するため，2018年12月1日までに上記の勧告内容に関する説明／進捗に関する保全状況報告書を提出すること。

イコモスは，もし必要であれば，この勧告に関して締約国と議論を行う用意と意志がある。